造園植栽特論 (2単位)

担当者氏名 鈴木貢次郎

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

造園空間における植栽のためには、植物材料、植栽環境、機能性、意匠(狭義デザイン)、文化(歴史)、経済面を考える必要がある。これらの要素の理解と総合化を、公園緑地、街路、高速道路、工場、学校、テーマパーク等の広範な造園空間を事例にあげながら試みる。またこれらの要素を植栽の計画、設計、施工、管理の段階で考える。本講義のねらいは、造園空間をつくるための最も特徴的な素材である植物材料について学び、それを植栽デザインに生かす力を養う。植物材料の基礎的な分類、生理、生態を把握しつつ、デザイン手法を学ぶ。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

植物	植栽	デザイン	草本
樹木	設計	花	空間

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	植栽空間を考える 1	植栽空間とは何か理解する。	各講義時に資料を配布する。 配布資料の確認と講義内容を復習しておくこと。 関係する資料を事前に収集し、講義内でのディスカッションに備える。
2	造園植栽とは何か?	造園植栽に必要な要素を理解する。	
3	植物材料を考える 1	草本、木本、タケ、ササ、ヤシ等の植物材料の基礎的な分類、生理、生態を復習する。	
4	植物材料を考える 2	植栽環境にはどんな要素があるのか理解する。	
5	植栽環境を考える	植栽環境のうちの温度について理解する。	
6	植栽環境(温度)を考える	植栽環境のうちの光について理解する。	
7	植栽環境(光)を考える	植栽環境のうちの土壌について理解する。	
8	植栽環境(土壌)を考える	植栽の機能について考える 1。	
9	植栽機能を考える 1	植栽の機能について考える 2。	
10	植栽機能を考える 2	植栽のデザイン(意匠)について考える 1。	
11	植栽デザインを考える	植栽のデザイン(意匠)について考える 2。	
12	植栽デザインを考える	植栽と文化の関係について理解する 1。	
13	植栽と文化を考える	植栽と文化の関係について理解する 2。	
14	植栽と文化を考える	講義のまとめ	
15	まとめ		

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

ランドスケープと緑化/鈴木貢次郎他/技報堂出版(1998)、樹木学/濱谷稔夫/地球社(2008)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

都市を彩る緑化デザイン—事例にみる植栽設計手法—/近藤三雄、井口務、濱野周泰、高橋新平、鈴木貢次郎/ソフトサイエンス社(1992)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポートとその発表による(100%)

◆オフィスアワー

授業終了時に相談することを基本とする。または造園科学科の各担当科目を参照のこと。

◆その他受講上の注意事項 各種造園空間をよく見学しておくこと。